

(対象名)

消防計画

平成 年 月 日

1. 自衛消防隊を次のように設置する。

自衛消防隊長  
( 経営者又は防火管理者 )

(各階勤務者)

- 1 F \_\_\_\_\_ 名
- 2 F \_\_\_\_\_ 名
- 3 F \_\_\_\_\_ 名
- 4 F \_\_\_\_\_ 名

- ⇒
- ・ 119 通報を行うとともに、建物内にいる者への連絡。
  - ・ 水バケツ、消火器による初期消火の実施。
  - ・ 避難は早期に開始。

2. 避難計画の概要及び避難誘導は次のように行う。

二方向避難の確保

(階別)	屋内階段	屋外階段	バルコニー	救助袋	...	...
1 F	_____	_____	_____	_____	_____	_____
2 F	_____	_____	_____	_____	_____	_____
3 F	_____	_____	_____	_____	_____	_____
4 F	_____	_____	_____	_____	_____	_____

避難通路等の確保

法令の定めるところにより、避難通路等の確保は次による。

階段、通路等には物品を置かない。避難経路は常に整理整頓し、避難の支障にならないようにする。

非常口には施錠しない(施錠する場合は、容易に開放できる構造とする)。

防火戸は正常に作動するよう平素から機能保持に努める。

防火戸の前には物品等を置かない。また、クサビをしない。

その他必要事項については、社内(店)規則で定める。

を実施

避難及び避難誘導

火災の発生を大声で知らせる。

物品持ち出しに気をとられない。

一度避難したら再び出火建物に戻させない。

落ち着いて避難路を考える(日ごろから避難経路を確認しておくことが大切です)。

煙による被害を防ぐため必要に応じて、タオル等を活用する。

いたずらに騒ぎ立て、無秩序な行動にならないようにする。

逃げ遅れの者がいないか、人員の確認をする。

を実施

通報連絡

非常ベルを鳴らす。

119 通報する。

社内(店) 電話が使えない場合の通報方法を考えておく。

通報内容は「火事です。 区 町 丁目 ビルです。大きく燃えています。(少し煙がでています)」とする。

を実施

3. 消火活動は次のように実施する。

消火活動

大声で皆に知らせる。

叩き消し、水バケツ、水道ホース等を使用する。

消火器を使用する。

火を見てもあわてず落ち着いて行動する。

天井に燃え移ったら初期消火を中止して避難する。

を実施

消防隊の誘導

消防車両を誘導する。

消防隊員を誘導する。

消防隊員に、出火場所、危険物品、避難状況等消火活動上必要な情報を伝える。

消防車が進入できるよう道路等の雑品等の整理

その他

を実施

欄に該当する番号を記入する。

